

## 家庭科におけるノクシカタの教材化—ESDの視点からの検討

財津 庸子  
都甲由紀子

### 1. 研究目的および方法

ESD (Education for Sustainable Development) は、現代の重要な教育課題のひとつである。2005年には国連の「持続可能な開発のための教育の10年」が始まり、家庭科においてもESDに関する授業実践が報告されるようになった。しかし、過去の家庭科においても、現在、ESDとして認識されるような実践は行われてきている。しかし、それらの実践はESDの視点を意識して実践及び報告されたものではない。今日の教育におけるESDをめぐる状況をふまえ、家庭科におけるESDの概念については、議論・研究が緒についたばかりである。現時点での家庭科のESDの概念として、国立教育政策研究所の報告書「学校における持続可能な発展のための教育 (ESD) に関する研究」(2012)に基づいた概念整理により、「(多様な)生活文化」、「環境 (エコロジー)」、「人権 (安心・安全)」、「地域 (つながり・かかわり)」、「ライフスタイルの変革 (創造・転換)」が提示されている。本研究においては、この概念整理に基づき、中学校・高等学校の家庭科におけるESDの内容を含む具体的な教材を検討することを目的とする。

研究方法としては、大学の授業における実践による成果と課題の検証を行う。その結果より、中学校・高等学校における効果的な教材としての要素を見出し、具体的な導入にむけて教材の改善を試みる。

### 2. ノクシカタ教材の家庭科における位置づけ

学習指導要領の改訂もあったが、依然として家庭科の授業時間数は各学校段階において増加していない。限られた時間数の中で、ESD等現代的な課題にかかわる内容を含む教材を現行の学習内容に新たに組み込むことは困難であると考えられる。生活を総合的にとらえる視点からも現行の複数の領域の連携をはかることによって、ESD概念を学習でき、時間数の限界も克服できるものとして、ノクシカタの教材開発を行いたいと考えた。ノクシカタとは、バングラデシュの手芸である。「ノクシ」は刺繍、「カタ」は布を表す言葉である。現在でもバングラデシュでは、家庭において行われている伝統的な女性の手仕事である。近年はフェアトレード商品としても位置付けられてきており、農村部の女性の現金収入にもつながっている。

一方、子どもの生活力低下の問題から、手指の巧緻性の低下も指摘されている。指導要領改訂で中学校において布を使ったものづくり学習が必修に位置づけられている中で、針仕事の大変さや楽しさを体験を通して知り、手指の巧緻性向上につながりうると考えられ、衣生活領域の内容として、被服製作の基本的技能習得を可能にすることができる。消費生活領域の内容としては、フェアトレードを通して、南北問題への認識を深め、自身の消費行動を振り返り、さらに消費行動の社会的責任も認識させ得る。家族関係や職業労働、家事労働の学習と関連づけて、女性の自立を考えさせることもできる。以上より、高等学校

「家庭」の「家庭基礎」及び「家庭総合」において、被服分野・消費生活分野・家族分野の総合的教材となり得る可能性があると考える。

写真1 ノクシカタの現物見本：テーブルクロスの一部  
(大学における授業でも学生に現物を提示)



### 3. ノクシカタ教材の具体的な学習内容

フェアトレードの意義を理解し、自身の生活に活かすには、先進国の便利で快適な生活を支えている途上国の現状を理解し、意識さえあればできる国際協力の存在を知ることからはじまる。そのことにより、自身の生活における消費行動の社会的責任を認識したエシカル消費の意識を育成することをめざす。さらに、製作体験を通じて消費生活の課題について実感を伴う理解を促したい。以上より、表1の通り、衣生活（手縫いの実習）・消費生活（社会的責任・南北問題等）・家族関係（ジェンダー等）の各領域を関連づけたESD教材としてノクシカタを位置付け、大学における実践より具体的な検証を行い、ESD教材の取扱いについて効果的な要素を具体的に見出したい。

表1 ノクシカタ教材の学習内容

領域	課題	教材としての学習内容
衣生活	手指の巧緻性の低下 基礎縫いの技術の未習得状況	針仕事の労力を体験的に知り、手指の巧緻性向上にもつながり得る。単調な基礎縫い練習を楽しく生活文化を知る機会としても位置づける。
消費生活	消費者としての責任（エシカル消費）意識の希薄さ	フェアトレードを通して南北問題への認識を深め、自身の消費行動を振り返り、さらに消費行動の社会的責任も認識させ得る。

家族関係	ジェンダー問題を含むワークライフバランスや女性の自立に関する課題	Bangladeshの女性の自立や貧困問題、長時間低賃金労働等の問題を扱うことにより、日本の現状も振り返り、自身のこれからの生き方や生活を考える。
------	----------------------------------	---

#### 4. 授業の実際

ノクシカタの製作を通して、体験的に手仕事の楽しさや手間を理解させ、労力の価値と商品としての価値の関係にも目を向けさせると同時に、手指の巧緻性向上にも寄与することを意図して、大学において次のような授業を実施した。

表2 授業の概要

実施日時及び場所	2011年12月21日3限(13:10-14:40) / 被服構成実習室
授業者・授業科目名	財津庸子・都甲由紀子 / 被服構成実習1
受講生	大分大学教育福祉科学部の学生12名 (1年生9名, 3年生3名, すべて女子学生)
実践の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 事前アンケート記入 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ フェアトレードという取組の実態を知る(DVD 20分)</li> <li>○ DVDの補足として</li> </ul> </li> <li>● なぜ国際協力が必要か: バングラの縫製産業の現状を紹介する: ユニクロなどの例を挙げ、自身の生活とのかかわりを考える <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今回はバングラのフェアトレード商品のひとつであるノクシカタを体験する</li> <li>○ ノクシカタ現物紹介</li> <li>○ 製作方法の説明: キットの解説書参照</li> <li>○ 製作開始: 課題のプリント配布</li> </ul> </li> </ul> <p>* 作品製作・完成は冬季休暇中の課題とする</p>
使用教材	ノクシカタ体験キット(シャプラニール)使用

#### 5. 結果

結果については、事前アンケート・レポート・作品より示す。

##### (1) 事前アンケートの結果

##### ① 手芸に対する意識

表3 学生の手芸に対する好き・嫌い

好き・嫌い	大好き	どちらかというが好き	どちらかという嫌い	嫌い・苦手
人数	2	7	2	1

\* 刺繍をするのは初めての学生もいた。

##### ② 学校での布を使った製作実習に関する記述

小学校ではエプロン・ナップサックを製作した学生が半数以上であった。衣服を製作

したことがある学生は 12 名中 5 名であり、中学時代に経験していた

### ③フェアトレードについて

表 4 フェアトレードの認知度

認知度	よく知っている	聞いたことはある	初めて聞いた
人数	5 (利用経験者 2)	5	2

表 4 で良く知っているところたえた 5 名のうち 3 名は、3 年生であり、前期の講義でフェアトレードについて、学習経験がある者であった。一般的な地方都市における認知度は 1 割強である。

### 写真 2 学生の作品例



### (2) 課題レポートの結果

課題レポートでは、完成までにかかった時間、自分の作品をもし売る場合の価格、製作した感想とフェアトレードについての意見・感想を自由にも書いてもらった。

- ① 受講生の平均作業時間：12.8 時間（8～18 時間に分布）
- ② 希望の売値の平均値：438 円（100～1000 円に分布）

### ③ 課題レポートの製作に関する感想分析

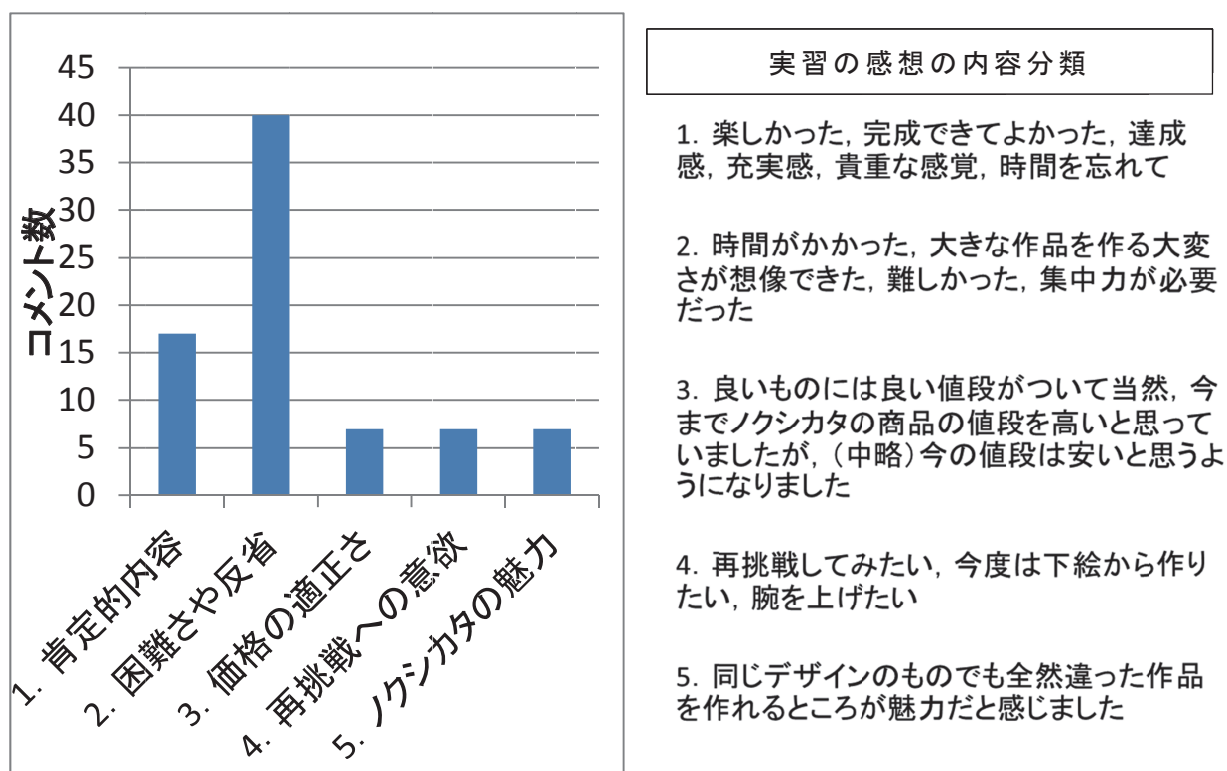


図1 実習の感想の内容分類

#### < 針仕事の価値と意味が読み取れる記述例 >

- バングラデシュの女の人はずばらしい手を持っているな。
- ノクシカタを体験することで、フェアトレードについて話を聞くだけでなく実感を持つことと、消費について考えるきっかけになりました。
- 作れば作るほど愛着がわいてきて、完成したときは嬉しかった。ものを作り上げる楽しさを久しぶりに経験できた。
- これまで刺繍をほどこす過程なんて考えたことがなかったので、こんなに大変なんだと初めて気づきました。
- 慣れないため、あまり上手にはできませんでした。しかし、縫っていくうちに慣れてきてコツもつかむことができたと思います。

④ フェアトレードに関する意見・感想

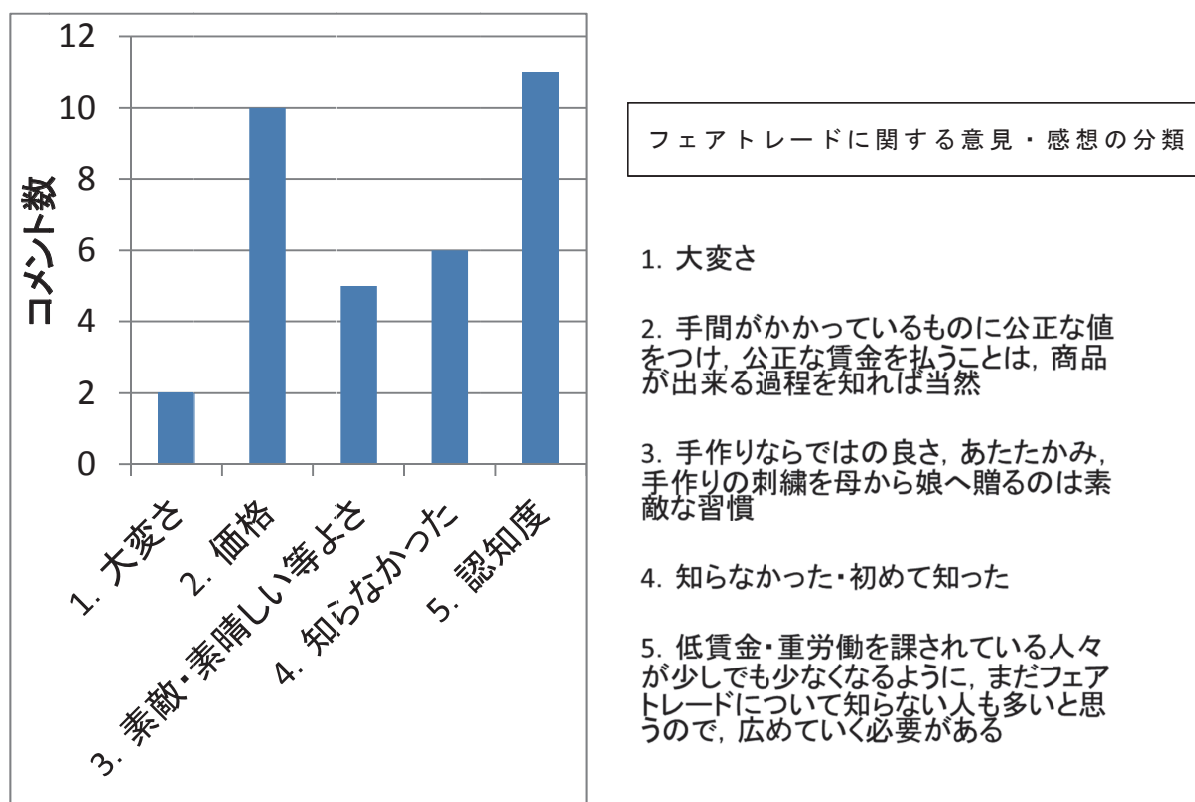


図2 フェアトレードに関する意見・感想の分類

<製作体験によるモノの価値の理解と国際協力の意味が読み取れる記述例>

- フェアトレードを行うことで、製作・販売する側は相応の賃金を受け取ることができ、国の経済復興にもつながるので大変素晴らしいことだと思いました。
- 私たちは自分たちの豊かな生活を陰で支えている周りの人たちにも気を配ることができるような精神的にも豊かな人間であるべきだと考えています。そして、それが本当の意味での豊かさにつながっていくのだと考えます。
- つくった人たちの生活の収入源になるのならお互いにいいな
- モノの価値やモノが作られるまでの大変さについて考えるよいきっかけとなると思う。
- 努力に見合った価格で売買して、つくった人たちがきちんと収入を得られるということはとても大切

以上より、次の3点について成果がみられたと考える。①経済的に発展途上であっても、現在でも針仕事の技術と文化が継承されている国と、生活の中からほとんど針仕事が消えてしまって製法が分からない布製品をほぼすべて購入して使用する先進国を比較し、経済的な観点だけでない豊かさに気づかせるように促すことができた。②事前事後レポートより、フェアトレードへの関心を高め、針仕事の労力を体験的に理解させることができ、先進国の衣生活の現状を振り返らせることができた。③途上国の女性の労働のあり方より、家庭や社会における女性の労働のあり方を考えるきっかけにもできる可能性がみられた。

よって、ノクシカタは教材として、次のような意義があると考えられる。①南北問題への認識を深め、自身の消費行動を振り返る消費行動の社会的責任認識につながる②女性の家庭および社会における仕事のあり方を通じて自立を考える(今回の実践では取り扱えず、課題として残った)③製作体験を通して消費している商品の価値や意味を実感を伴って理解することができる④被服製作の基本的技能習得や製作への意欲につながる⑤経済的な観点だけでなく豊かさに気づかせることができる

よって、高等学校「家庭」の「家庭基礎」及び「家庭総合」において、衣生活領域・消費生活領域・家族関係領域の総合的教材となり得る可能性があることが実証できたといえよう。これらのことから、家庭科のESDの概念として提示されている中の「(多様な)生活文化」については、ノクシカタ自体を知り、製作することから認識でき、フェアトレードを知ることにより、エシカル消費の視点から生活を振り返るということから、自分の生活を成り立たせている「地域(つながり・かかわり)」について、さらに「ライフスタイルの変革(創造・転換)」にもつながるものと考えられる。「人権(安心・安全)」については、女性の自立や労働のあり方を中心に扱うことにより、可能であると考えられるが、今回の展開では時間数の関係もあり、実証するには至らなかった。以上より、ノクシカタは家庭科におけるESD教材としての内容を含む教材として位置づけられるものであると考える。

ESD教材として家庭科において有効である要素としては、今回の大学における実践でも製作を通じた認識の深まりがみとめられたことから、なんらかの体験学習を含むことは有効ではないかと考えられる。

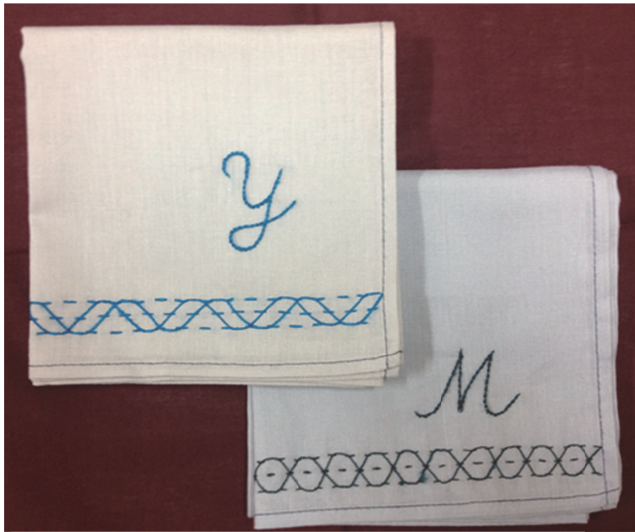
## 6. 中高家庭科への導入に向けた具体的な改善

大学における実践結果をふまえて、以下の点から改善した教材を提案する。

- 1モチーフの体験にする etc
- 中学校版と高等学校版(家庭基礎版)の提示
- 中学校:アウトラインステッチ
- 高等学校:1つの花のステッチ

具体的には、写真3のような中学校・高等学校での教材化に向けて、無地ハンカチにタガ(縁取りによく使われる)とイニシャルを組み合わせた刺繍をほどこす作品を提案したい。教材の要件としては、時間短縮のため1モチーフとすること、基礎的技術の習得につながる縫い方の練習を含むこと、楽しさを実感でき、生徒の個性や好みをいかせること、ノクシカタの技法を活かすことがあげられる。

写真3 ノクシカタの技法を活かした作品例



1. 3本線とイニシャルをチャコペンで書く
2. ランニングステッチを3本して, 互い違いになるようにする.
3. ランニングステッチをすくって模様をつける.
4. アウトラインステッチでイニシャルを縫う.

注)

本論文の内容は、日本家庭科教育学会第55回大会においてポスター発表したものに加筆修正したものです。また、科学研究費（課題番号：22500700）及び平成23年度と平成24年度の部局長裁量経費の助成を受けて行ったものです。付記してここに謝意を表します。

#### 参考文献

- ・文部科学省、中学校学習指導要領解説「技術・家庭編」、2008年
- ・文部科学省、高等学校学習指導要領解説「家庭編」、2010年
- ・国立教育政策研究所報告書「学校における持続可能な発展のための教育（ESD）に関する中間報告」、2010年
- ・国立教育政策研究所報告書「学校における持続可能な発展のための教育（ESD）に関する最終報告」、2012年
- ・妹尾理子・西原直枝・佐藤裕紀子・井元りえ・大矢英世・加賀恵子・佐藤典子・志村結美・檜府暢子・新實五穂「ESDとしての家庭科の構成概念の検討」日本家庭科教育学会2012年度例会発表要旨集、2012年
- ・財津庸子「家庭科における“持続可能な消費”に関する学習内容の検討—学習指導要領・教科書分析を中心に—」、消費者教育第32冊、日本消費者教育学会、pp135-143、2012年
- ・財津庸子「消費行動の社会的責任認識を促す消費者教育—消費者市民の育成をめざして」、家計経済研究、N095、pp46-54、2012
- ・御船美智子編著、2006、『消費者科学入門』光生館



- ・財津庸子，2007，「消費行動の社会的責任の枠組みに関する一考察」『消費者教育第27冊』，pp73-82
- ・内閣府，2008，平成20年版国民生活白書「消費者市民社会への展望～ゆとりと成熟した社会構築に向けて」
- ・Steffens, 2007, The evolution of consumer education, ” PROMOTING CONSUMER EDUCATION” OECD 2009
- ・財津庸子，2010，「消費行動の社会的責任意識形成に関する研究」学位論文（九州大学）
- ・財津庸子，2009，「消費行動における『社会的責任』概念把握の試み～学習機会としての地産地消の位置づけの検討」『消費者教育第29冊』，pp119-127
- ・財津庸子，2011，「日本のフェアトレードの現状と課題～消費者教育の視点からの検討」『消費者教育第31冊』，pp97-105